

## 特集：「情報構造と名詞述語文」調査例文

風間 伸次郎

### 0. はじめに

これまでの語研特集では、ヴォイス (含む「受動表現」)、アスペクト、モダリティ、他動性、連用修飾複文、と、もっぱら動詞述語文を中心に扱って来た。唯一「所有・存在表現」は静的述語および名詞句を扱った点でこれらとは若干異なっていた。

残る課題の1つは、名詞述語文 (ノコピュラ文) であり、そこには指示性や文の情報構造が大きく関わって来る。したがって今回の特集ではこれを取りあげて特集のアンケート例文を構成した。

まずいったんアンケート例文を全て示し、しかるのちに個々の例文について、その狙いや理論的背景を述べて行くことにする。

- [1] 「えっ、一郎 [ノ固有名詞なら何でもよい、以下も] が来たの？」「いや、一郎じゃなくて次郎が来たんだ。」【対比焦点 (主語)】 (例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)
- [2] 「誰が来た (の) ?」「一郎が来たよ。」【WH 焦点 (主語) ・WH 応答焦点 (主語)】
- [3] 「一郎の方が大きいんじゃないの？」「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】 (一郎と次郎の背について話している状況で)
- [4] [電話で] 「どうした (の) ?」「うん、今、お客さんが来たんだ。」【文焦点 (自動詞文)】
- [5] 「あの子供が一郎を叩いたんだって!」「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」【対比焦点 (目的語)】
- [6] 「赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買う (の) ?」「(私は) 青い袋を買うよ。」【対比焦点 (目的語, 特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】
- [7] 「一郎はどうした?」「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」【述語焦点】 (例えば、朝少し遅く起きて来た一郎の父親が、姿の見えない一郎について母親に尋ねている場面で)
- [8] 「(あの子供は) 誰を叩いたの?」「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」【WH 焦点 (目的語) ・WH 応答焦点 (目的語)】
- [9] [電話で] 「どうした (の) ?」「うん、一郎が (自分の) 弟を叩いたんだ。」【文焦点 (他動詞文)】 (例えば、電話の向こうで子供の泣き声が上がったのを聞いての発話)
- [10] 「あのケーキ、どうした?」「ああ、(あれは) 一郎が食べちゃったよ。」【目的語主題化, 主題 (目的語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】
- [11] 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」【分裂文】

- [12] 「あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。」【**措定文 主題** (名詞述語文の主語)の継続性 いわゆる **pro-drop** 言語の可能性】
- [13] 「彼のお父さんは、あの人だ。」【**倒置指定文**】
- [14] 「あの人が彼のお父さんだ。」【**指定文**】
- [15] 「あさってっていうのはね、あしたの次の日のことだよ。」【**定義文**】
- [16] 「何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて」 「私はコーヒーだ。」【**ウナギ文**】
- [17] 「注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか？」との問いに」「コーヒーは私だ。」【**逆行ウナギ文**】
- [18] 「その新しくて厚い本は(値段が)高い。」【**形容詞述語文 修飾・並列・述語**】
- [19] 「砂糖の入れ物を開けて」「あっ、砂糖が無くなっているよ!」【**意外性 (mirativity)**】
- [20] 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あっ、そうだ! 田中君だったな。」【**思い出し**】

#### 1. 焦点に関する類型論的研究 (下地 (2015))

下地 (2015) では, Lambrecht (1994) (筆者未見) の枠組みを参考に, 焦点を対比焦点, WH 応答焦点, WH 焦点の3つに分け, 琉球諸方言における焦点標識の出現可能性を調査しこれを次の表のようにまとめている。

表 1: 下地 (2015)による琉球諸方言における焦点タイプと焦点標識の出現可能性

	対比焦点	WH 応答焦点	WH 焦点
宮古伊良部	D/D	D/D	D/D
与那国	D/D	D/D	(D/D)
奄美 (湯湾)	D/D	D/	
奄美 (浦)	D/D		

動詞述語文/非動詞述語文

すなわち, ここでの **D** は上記の諸方言における焦点形式で, これは対比焦点において最も現れやすく, これに次いで **WH 応答焦点**, **WH 焦点** の順になっている。このことから下地 (2015) は, 次のような階層を提案している。

- 1) 焦点化階層①: 階層のある地点で焦点標識を使えるなら, その左側の焦点タイプでも使える。**対比焦点 > WH 応答焦点 > WH 焦点**
- 2) 焦点化階層②: 動詞述語文のほうが非動詞述語文よりも焦点標示されやすい (=非動詞述語文で **D** が出現するなら動詞述語文でも出現する)。**動詞述語文 > 非動詞述語文**

このことの検証に使用する例文は下記である (上記に加え, さらに文焦点や分裂文の例も加えた)。

- [1] 「えっ, 一郎 [ / 固有名詞なら何でもよい ] が来たの?」「いや, 一郎じゃなくて次郎が来

- たんだ。】【対比焦点（主語）】（例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で）
- [2] 「誰が来た（の）？」「一郎が来たよ。」【WH 焦点（主語）・WH 応答焦点（主語）】
- [3] 「一郎の方が大きいんじゃないの？」「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」  
【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】
- [4] 「電話で」「どうした（の）？」「うん、今、お客さんが来たんだ。」【文焦点（自動詞文）】
- [5] 「あの子供が一郎を叩いたんだって!？」「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」【対比焦点（目的語）】
- [6] 「赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買う（の）？」「青い袋を買うよ。」【対比焦点（目的語、特に「どっち」という対比的な疑問語の場合）】
- [7] 「一郎はどうした？」「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」【述語焦点】（例えば、朝少し遅く起きて来た一郎の父親が、姿の見えない一郎について母親に尋ねている場面で）
- [8] 「（あの子供は）誰を叩いたの？」「（あの子供は）自分の弟を叩いたんだ。」  
【WH 焦点（目的語）・WH 応答焦点（目的語）】
- [9] 「電話で」「どうした（の）？」「うん、一郎が（自分の）弟を叩いたんだ。」  
【文焦点（他動詞文）】（例えば、電話の向こうで子供の泣き声が起きたのを聞いての発話）
- [10] 「あのケーキ、どうした？」「ああ、（あれは）一郎が食べちゃったよ。」  
【目的語主題化、主題（目的語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】
- [11] 「私が昨日お店から買って来たのはこのリンゴだ。」【分裂文】

## 2. コピュラ文に関する研究

### 2.1. 西山 (2003)

西山 (2003) は意味論および語用論に基づいたコピュラ文の包括的な研究である。そこでは、指示性・非指示性、および飽和性／非飽和性という観点から、日本語のコピュラ文を下記のように分類している。

表 2：日本語のコピュラ文の分類（西山 (2003: 122)による）

	「AはBだ」	「BがAだ」
1.	指定文「あいつは馬鹿だ」	/
2.	倒置指定文「幹事は田中だ」	指定文「田中が幹事だ」
3.	倒置同定文「こいつは山田村長の次男だ」	同定文「山田村長の次男がこいつだ」
4.	倒置同一性文「ジキル博士はハイド氏だ」	同一性文「ハイド氏がジキル博士だ」
5.	定義文「眼科医（と）は目のお医者さんのことだ」	/
6.	/	提示文「特におすすめなのがこのワインです」

コピュラ文の分析に用いる例文は下記である。

- [12] 「あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。」【指定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】  
[13] 「彼のお父さんは、あの人だ。」【倒置指定文】  
[14] 「あの人が彼のお父さんだ。」【指定文】  
[15] 「あさってっていうのはね、あしたの次の日のことだよ。」【定義文】

## 2.2. うなぎ文に関する対照研究（時崎 (2002)）

時崎 (2002) は英語でも補語が定であればうなぎ文が成立することを述べ (A: Let's see, sir. You're the black coffee with sugar? B: Right. C: I'm the coffee with cream and sugar, Beetle), さらに逆行うなぎ文 (I'm the ham sandwich: the quiche is my friend.) も取り上げている。冠詞のないロシア語でうなぎ文が成立しにくいことにも触れている。

それ以外の言語について、うなぎ文の成立の可否を通言語的に広く調べたものは管見の限りない。うなぎ文に関する調査例文は下記である。

- [16] 「何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて」「私はコーヒーだ。」【ウナギ文】  
[17] 「注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか?」との問いに」「コーヒーは私だ。」【逆行ウナギ文】

## 2.3. 風間 (2012)

風間はコピュラ文の諸相を通言語的に概観した1つの試みである。

以下は引用である。

具体的には形容詞的意味の語に関して、内心構造と外心構造の文の表現形式を扱う。内心構造を表示する要素を「リンカー」、外心構造を表示する要素を「コピュラ」と呼ぶと、世界の言語は下記のいずれかに分類できる。①リンカーもコピュラもない、②リンカーはあるがコピュラはない、③コピュラはあるがリンカーはない、④リンカーもコピュラもある。「線条性」の桎梏ゆえに、連続を断ち切るためもしくは不連続を繋げるため、どの言語も一定の方略を用意しており、各言語はその言語全体の体系に応じて各々独自の手法を用いていることがわかる。

まずリンカーもコピュラも持たないタイプでは、修飾語と被修飾語の語順が基本的に決まっている。イントネーションも重要な役割を果たしている。次にリンカーやコピュラを持つ言語についてみれば、次のようなことがいえるだろう。

コピュラに対してリンカーが言語によってきわめて多様な有様を示すことがわかる。コ

ピュラが十分に発達していない言語の場合、修飾構造の連続を断つために人称代名詞（モンゴル語など）、指示詞（インドネシア語）、程度副詞（漢語）、などが機能している例がみられた。これらは歴史的にコピュラに文法化し得る要素であると考えられる。またこれらは限定度の問題と深く関わっていることをみた。他方リンカーは、タガログ語のリンカーやペルシャ語のエザーフェ、日本語の連体形、アラビア語の冠詞の一致、ロシア語の性・数・格の一致、エスキモー語の語彙的接辞、コリヤーク語の抱合などきわめて多様である。この中にはロシア語やアラビア語など、基本的に一致による同格をその統制原理とする言語と、そうでない言語の2つがあることにも注意したい。

並置の使用という観点からみればインドネシア語とペルシア語がもっとも対極的であるといえよう。すなわちインドネシア語ではある2つの要素を並置すれば修飾関係になりこれを断って外心構造にするためには指示詞が必要である。逆にペルシア語では並置すれば外心構造になるので、連結するためにはエザーフェが必要となる。

上記の検証に用いる文は下記である。スペイン語などでは、アスペク的な違いによって2つのコピュラが使い分けられるが、形容詞述語文と名詞述語文の両方を訊くことはこの点の解明にもつながるものと考えている。

[18] 「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

### 3. 意外性に関して（児倉 (2015)）

児倉 (2015: 118) は証拠性と意外性の関連について、以下のように記している。

証拠性とされる対立には文の表わす情報と話し手の持つ既存の知識との関係が関わる場合もある。トルコ語において、*-miş* は間接経験を表す一方、話し手の既存の知識（あるいは予測）に反する情報であれば、直接経験に基づく情報にも使用することができる。そのとき *-miş* は、意外性 (*mirativity*) を表す。

意外性に関しては、下記の例文を用いる。なお意外性に現れる形式と、証拠性の関連についてみるためには当然証拠性に関する例文がなければならないが、これは本論集 16 号のモダリティ特集の例文に多く含まれているので、これを活用する。

[19] [砂糖の入れ物を開けて]「あつ、砂糖が無くなっているよ！」【意外性 (*mirativity*)】

[20] 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あつ、そうだ！ 田中君だったな。」【思い出し】

#### 4. 課題や注意点

今回調査する諸要素の中には、言語によっては明示的な形式を持たない、あるいはイントネーションによってのみ区別される(特に焦点など)、というケースが考えられる。調査者はイントネーションにも注意し、必要と思われる場合にはできればそれについても記述する必要がある。

疑問文も今回の調査の1つの目的である。否定疑問文の答も、英語とは異なり、ドイツ語やフランス語では Yes No のいずれの対応要素でもないものが用いられるが、こうした要素はとりたてとも関連が深いと考えられる。そのような要素にも注目したい。

#### 参考文献

- 風間伸次郎 (2012) 「コピュラ文の諸相」 影山太郎・沈力 (編) 『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』 85-106. 東京: くろしお出版.
- 児倉徳和 (2015) 「証拠性」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 118. 東京: 三省堂.
- Lambrecht, Knud (1994) Information structure and sentence form. Topic, focus, and the mental representations of discourse referents. Cambridge: Cambridge University Press.
- 西山祐司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論 —指示的名詞句と非指示的名詞句—』 東京: ひつじ書房
- 下地理則 (2015) 「焦点化と格標示」 (WS「日本語方言のケースマーキングのとりたて性と分裂自動詞性」) 『日本言語学会 第151回大会予稿集』 396-401.
- 時崎久夫 (2002) 「日英語のうなぎ文」 『日本言語学会 第124回大会 予稿集』 84-89.